

今夏「フクシマを訪ねる・憲法9条を誇りにする会のフィールドワーク」に参加

「子どもたちに未来をわたしたい・大阪の会」 T

● 7月30日 福島県本宮（もとみや）へ橋柳子さん（元福島県教組役員）の仮設住宅を訪問
私は2年ぶりの訪問でした。住宅横の花壇がたいへんきれいになっていました。「原発事故ですべてを奪われた。戦争と同じだ。浪江町の自宅から、ここに避難して来て3年がたった。この仮設も最初62世帯が住んでいたが、今35世帯となった。しかし復興住宅の建設が少なく、ここに置かれたまま。『復興』の大合唱の中の『棄民』政策が、進められている。安倍政権は、この6月『帰還困難区域』を除き、『居住制限区域』と『避難指示解除準備区域』の住民に対し2017年3月までに避難指示・解除の方針を決定した。賠償金打ち切りのためである。“勝手に故郷を汚しておいて、今度は勝手に故郷にもどれ。帰らないやつへの補償はなし！”と言っている。避難の自由、選択の保障が全く保たされていない。国や権力が、命の選別をする権利はない！」と橋さんは、強く訴えられました。

● 7月31日、福島県教組の竹中さん、柴口さんの案内・説明で、バスで飯館村、南相馬、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町を（帰還困難区域の中も）まわりました



2年前に飯館村をバスで通った時は、“震災直後のままの家、人が誰もいない”という状況でした。今回は、除染作業をする人々や車がたくさん。しかし、何度も窓から見えるこの風景—汚染物や汚染土を黒シートで覆ったもの（フレコンバッグ）の山。どんどん増えるが、ここから移動できなくなっています。

飯館中学校に入らせてもらいました。「なぜか、この学校の汚染度がたいへん高いのです。除染もまだまだできません。」と。手持ちの探知器が、0.4に。最高8.9μシーベルト/hまで上がる場所もありました。“日本一美しい酪農と畑の村”と言われていた飯館村、立派な校舎の飯館中学校。村の人々の悔しい思いはどれほどのもののでしょうか。しかしこの除染作業で村の汚染は本当になくせるのか？今の政府の「帰還政策」に、危険性と無責任さを強く感じました。

● 残されていた！「原子力明るい未来のエネルギー」の看板（双葉町） 町は撤去する方針。それに対して、この標語を小学校時に考えた人・本人が、「負の遺産として永久保存すべき」と署名活動に取り組まれています。



富岡町内の道路を走っているとき、柴口さんが「この道路の左側と右側では、ほとんど放射線量は変わりません。しかし行政は『左側の地区のほうが平均すると放射線量は低い』として左側の住民への賠償額を右の住民への賠償額と差をつけて提案してきたのです。住民間の分断をここまで謀り行っているのです。」と。

帰還困難区域のため、国道6号線は、福島県内の一部区間の通行が規制されていましたが、昨年9月15日から自動車のみ自由通行が可能に。しかしバスで6号線を通っていて「5μシーベルト/h」まで上がる場所もありました。通学の子どものバスも通るようです。

● 富岡町の海辺・港側。膨大な量のフレコンバッグが、並べ置かれていました！

「フレコンバッグの黒い袋の印象がたいへん悪いので、次からグリーン？に色を変えるようです。周りとの調和を図り目立たなくして、ごまかそうとでも思っているのでしょうか？

今度みなさんが来られた時は、グリーンフレコンバッグの山になっているかもしれません。」と説明されました。エエッ?!とあきれ驚いた声が上がりました。



● 福島県・退職女性教職員の会の池田さんは、30日夜の会合で「事故後4年経っても11万人を超える避難者。2万5000人の子どもたちが、県内外へ避難しています。原発事故関連死は、今年4月現在で1889人に。18歳以下の甲状腺がんが87人、疑いも含めると1000人を超えます。被災地の学校は今なお仮設校舎のまま。バスで遠距離通学している子ども達が多い。進まない除染、仮置き場がない、決まらない。子ども達のストレスはもう限界に来ています。子ども達を守る、再稼働を許さない取り組みを続けたい。皆さん、福島を忘れないでほしい。」と言われました。

